

つ羅馬の「パトリアルフ」の「ババ」と稱せり（此名稱は今に至るまでアレキサン
 ドリアの「パトリアルフ」の尊稱たり）
 此の如く順序に於て差異あるも權理に於ては更も等差なく且つ教會
 治理上は關しては「パトリアルフ」の權理他の諸主教に對して遙に其上
 に出るも教會法律上の關係に於ては皆相均くして此差異の單に主教
 の同一階級の種類の相異なるを示す過ぎぬ其の特有の權理即ち司
 祭及び補祭を按手し并に共同して主教を按手し聖堂代案聖膏を聖
 するの權理の諸主教の均く有せし所にして今日に至りて亦然りとす
 然るも年月の経過するに従ひ特に第七世紀の頃より世の形勢は伴ふ
 て「パトリアルフ」の位置は變更を來せりアレキサンドリヤ、アンティオヒ
 ヤ、イエルサリムの「パトリアルフ」の管理は屬する國々の亞刺比亞人な
 る「マホメット」人及び蠻夷の民「アリアン」人に蹂躪せられて復恢復するこ
 と能はざるに至れり又「コンスタンティノポリ」の「パトリアルフ」の管轄せ

る所の其區域縮少せざるも數十年間打續きたる聖像廢毀の争亂と正
 教を奉せざる皇帝の窘逐とに由りて「パトリアルフ」の尊嚴大に毀損せ
 られ其權勢甚衰ひたり羅馬「パトリアルフ」の區域の之に反して西歐羅
 巴全州は擴まり羅馬「ババ」の權勢大に張れり
 羅馬の會て大羅馬國の首府たりき「コンスタンティン」大帝が都を「コン
 スタンティノポリ」に移せしより羅馬の其權威の幾分を失ひたること疑な
 くと雖ども帝權の衰ふると共に「ババ」の權勢日と追ふて盛大と爲れり
 東方に於ては重要な教座の公認せられたる同等の權利を重んじて
 一主教が他の主教を凌駕するが如き事なかりしに西方に於ては古都
 たり且つ唯一の使徒の教座たる羅馬主教は頑固するものなかりき西
 方の基督教徒は羅馬主教を以て眞誠なる「ニケヤ」信經の重なる代表者
 及保護者と見做し又野蠻民の大國の首府たる羅馬の名を聞きて更

恭敬の念を起し羅馬主教を以て至基督教社會の首領と見做せり羅馬帝國の頽敗の地又其國を創立せる新人種歐羅巴の新立國の羅馬「ババ」を尊崇すること最も深く亞弗利加西班牙佛蘭西の神品等「ババ」哀願して救援を求めたり且つ東方よりも教會の紛争窘途等の時又際して主教の羅馬に至りて「ババ」又救援を求め冤枉を伸べん事を請ひたる者亦少なからむ此の如き勢なるを以て羅馬「ババ」の全基督教社會の保護者西方に於ける教會の君主と見做されたるの蓋し當然なり加之ならむ羅馬「ババ」の富亦饒かなるを以て廣く貧困者を救濟するを得飢饉洪水其他の災難ある毎に「ババ」の補助を求め又野蠻民の侵攻せし時「ババ」出て、能く猛烈なる戦勝者の怒を鎮めたり是を以て伊太利の人民の自然「ババ」の權を以て當時争乱變遷の世に際して獨り恃む足るものと見做し「ババ」より救援補助を求むるを得べしと信ぜるに至れ

り而して羅馬「ババ」の亦巧又此好機を利用して己の勢威を張り此世の利益を占むるを務めたり此の如くにして羅馬の神靈的の權勢の其の失ひたる國權の頽趾又固定せり

第九世紀の中葉に至り基督教の初世紀即ち使徒ペトルの門弟主教クリメント時代又出でたりと稱する教會の諸法規書翰等の編纂したるもの世に出でたりしが「ババ」の占有せんと欲せし權利特權の皆此の法規にて定められたり此法規の第七世紀又住せし主教インドルの編纂に係るものなりとせしを以て後世之をインドルの僞律例と稱す此律例は何人の何處に於て編纂したるものなるや明かならむ其の僞物たること現然たるにも拘りらず西教會の之を教會法中に編入し「ババ」の之を以て神立の法と爲せり此法は依れ「ババ」の最高等の主教にして他の主教の皆「ババ」より其權を授かり主教の其旨を奉ずるの器械に

して唯々諾々之に従ひざるを得ず「ババ」の獨り主教を任免し公會を召集するの權理を有し「ババ」の認知承諾を経ずして作りたるの律例の其効なし基督自ら之を立て、全基督教會の首領と爲したるが故なりとす

然れども東方教會の此の「ババ」首領説を可認せざ古傳を守ること頗る堅くして常々羅馬「ババ」の關涉を排斥せり故に「ババ」輩の東教會を屈服することを以て首要の目的となせしに第九世紀の末此目的を達するを得べきが如き機會至れりコンスタンティノポリの教會は偶像廢毀の爭亂漸く止んで人々安堵の思を爲すと間もなく新黨派の争起りて兩党共自ら「ババ」東教會の内事は關涉するの機會を予へたり

當時コンスタンティノポリの「パトリアルフ」をイグナティと云ひ硬直の人なりければ攝政「フォルダ」の行正しからざるを見て常々之を諫めたり

しが一日「フォルダ」が公然邪なる事を行ひ大に民の惑を生トたるより聖體を領くることを禁せしに「フォルダ」怒りて恚み其位を斥ぞけたり而してイグナティの位を黜げらるゝ及んで「フォルダ」の相當の順序を経て「パトリアルフ」の位に擧げられたり「フォルダ」の曾て顯要の地位を占めたる人として才識絶倫深く神學の蘊奥を究めたり動もすれば教會の爭論を爲すの傾きあるコンスタンティノポリの人民は「パトリアルフ」イグナティと「フォルダ」の間を党を分ちて鬪々正邪を争ひ遂にコンスタンティノポリは地方公會を開きて其爭論を絶たんとし羅馬「ババ」をも招けり

當時の「ババ」ニコライ一世なりしがニコライの全基督教會の「ババ」の管理する所として「ババ」は神靈上の大權を握り且つ基督の代理者なるを以て凡そ徳義法を犯す者并に教會の秩序を破る者其の何人たるを問はず且つ何處に於て之を行ふと拘りらば皆必ず「ババ」の裁決審

判すべき者たるを自信すること最も深かりきニコライ自らコンスタ
ンティノポルの公會を赴かすして代理者を遣はせり斯くて公會のフテ
イの「パトリアルフ」を擧げられたるを可認し「パバ」の代理者亦之を同意
を表せしむ「パバ」ニコライ之を喜ばず己の代理者を譴責し自ら公會の
決議を變更するの權ありとし以て己の權威公會の上にあるを示せり
此時又羅馬とコンスタンティノポルの教座の間にボルガリヤ教會の事
を關して爭論起れりフテイの殊ニスラウヤン民は教を傳ふることを慮
れりコンスタンティノポルにては古より露西亞人の事を知りしがフテ
イの時代露西亞人大擧してポスホル海より襲ひ來りしに人民の祈禱
に由り暴風起りて之を斥ぞけたり「勝たれぬ力を保つの主や」云々の「カ
ノン」の此事件を因みて作られたるものなりと云ふフテイの當時キエ
フ又宣教師を送りてアスコルド及びデイルに説かしめたりとの説わ

り此時會々ボルガリヤ王ボリス希臘皇帝ミハイル又宣教師をボルガ
リヤに遣はさんことを請ひければフテイのストラウヤン語も通ざるソル
ンの人キリール及メフテイの兄弟を選びて之を遣はせしに二人の盡
力も由りてボルガリヤ及モラウヤに正教の扶殖せられ二人の當國の
方言を以て教を傳へ且つ聖書并に奉神禮書を譯せり然るも此地方の
羅馬教會の管理も屬せしが此時羅馬教會の奉神禮を行ふのみ唯希
伯來語希臘語羅句語のみを以てすべしとの説固定しければ當時權勢
と張るに汲々たる「パバ」のボルガリヤも己の教會の司祭を遣はし悉く
東教會の司祭を放逐し彼等のボルガリヤ人に授けたる教會の機密を
無効なりと公言せり
羅馬「パバ」の此の如き關涉も屈服するの固より正教會の忍ぶ能はざる
所にして必ずや其の曲を責めざるべからず是も於てフテイのコンス

タンテノボルに公會を設け八百六十七年たりしが西教會よりも三人の主教來りて此に會せり此公會に「パバ」の東教會に遣はせし書中も詳述せる關涉を審査して「パバ」ニコライを主教の任に當らざる者と判決し之を教會の親與を絶ちたり此後「フライ」の東方の「パトリアル」等も書を送りて「パバ」の不法の關涉を痛責し且つ西教會の容忍したる正教に背く箇條を列舉せり其の正教も背く最も重なる者の信經の第八條「及子」(Filioque)の語を挿入したる事と此語を以て言顯はされたる聖神の父及子より出づるの教なり第六世紀ウエストゴット人が西班牙を征服して基督教を奉せしとき「トレド」に開きし地方公會に於て始めて恣に此語を信經に附加せり抑も此を附加せし聖三者の三位を其本位に由りて別ちたるアリイ教の説を預防せんが爲め定理を説明するの方便として臆出せしものなるに新異端の解釋を生ずるの發端

と爲れり全地公會の「一たび聖三者の定理を確定して其議決を萬世不易と爲し以て新に誤解を生ずることなからしめんとせり然るも西教會に「西班牙」の信經附加盛んに行はれ「パバ」レオ三世の初め之を排斥したるも後ち「パバ」が己を教會の首領と爲すに及び定理として之を採用せり東正教會の全地公會の教を守ること堅く斷乎として之を採用せざりき「フライ」の此の正教に背反する箇條の外羅馬教會に行はれたる他の弊害を痛責せしが就中司祭の結婚せざるの義務と土曜日齋を守る事の如き最も其の重なるものなり之を羅馬教會と東正教會との分裂の發端とす後世起りたる所の事情の兩教會を調和するに至らず羅馬「パバ」の權勢を張らんとするの念益々募るよりして分裂の勢亦益々盛んなりき此分裂たる正教を奉ずる基督教徒の痛嘆する所にして正教會の祈禱の間兩教會一致して基督

教會の一群と爲り一牧者を戴かん事を祈るなり然れども正教會は主
 耶穌基督を惟一の牧者及教會の惟一の首たりと確信するを以て一羅
 馬教會の代表者を戴きて全教會の爲め基督の不能過の代人と認むる
 能はず
 正教會の内部の争乱紛擾と外部の危難と遭遇して能く基督の聖教を
 完全潔白と守れり新なる人種スラウヤン民の之より教の聖なる實を受
 け而して其の之を受くるや誠と完全として一弊害だも之の伴の使
 徒の言ふが如く人の言とせむ乃ち誠と神の言として(帖前書三)之を受
 けたりスラウヤン民の夙に東方に向ひて光を求めしと教會の之の聖書
 を示し方言を以て奉神禮を行ひしめ西教會に於けるが如く一人の意
 見は唯命之れ従はず神の言と全地公會の万世不易の制規を遵守すべ
 きを教へ而して主の彼等の爲め亞使徒キリール及メフヂイの兄弟な

る偉大の宣教師を起せり

ウザンテヤの此の如くにして其の至難の任を盡せり七全地公會の教
 會の教を闡明し定理を確定し且つ教會定理の表現たる諸儀式を制定
 せり此時又當りて將來スラウヤン民族の最も強大なる國と爲り其の托
 せられたる真理の最も確實なる守護者と爲るべき露西亞も亦基督正
 教を受けたり當時露西亞の宛も漸く其國を成したる時にして基督教
 の深く民心に入りて其國風民俗の基礎と爲れり基督教國民と爲るの
 露國民の首眼とする所にして露國史家の鼻祖が他國民の風習を列擧
 しつゝ自國の事を評して『吾人の惟一の律法を有す皆基督に於て洗禮
 を領け基督を衣たり』と云ひ以て其意を明示せり

基督正教會史畢

明治廿六年六月廿五日印刷

明治廿六年七月一日發行

發行所

正教會編輯局

翻譯者

上田將

東京市神田區駿河臺
東紅梅町九番地

印刷者

岡本利三郎

東京市麹町區麴町
拾丁目四番地

露國デミトリイ、ソコロフ著 上田將譯

◎舊約聖歴史

全一冊

定價金二十八錢
郵税金八錢

本書ハ舊約聖書に基き世界創造の時より救主耶穌基督の降世に至るまでの人類の歴史を記せしものよして巻尾にハ舊新約ハ記載せらるゝの地名畧圖、以色列人の埃及より迦南に至るの旅行圖、大關及所羅門時代の以色列國の圖等を添えたり

露國デミトリイ、ソコロフ著 上田將譯

◎新約聖歴史

全一冊

定價金二十八錢
郵税金八錢

本書ハ新約聖書ハ基き救主耶穌基督の降誕より基督在世の行爲、教訓、受難、復活、昇天に至るの事實を詳記したるものよして巻尾にハ舊新約聖歴史參考必用パレステイナ地圖并イエルサリムの細圖を添えたり

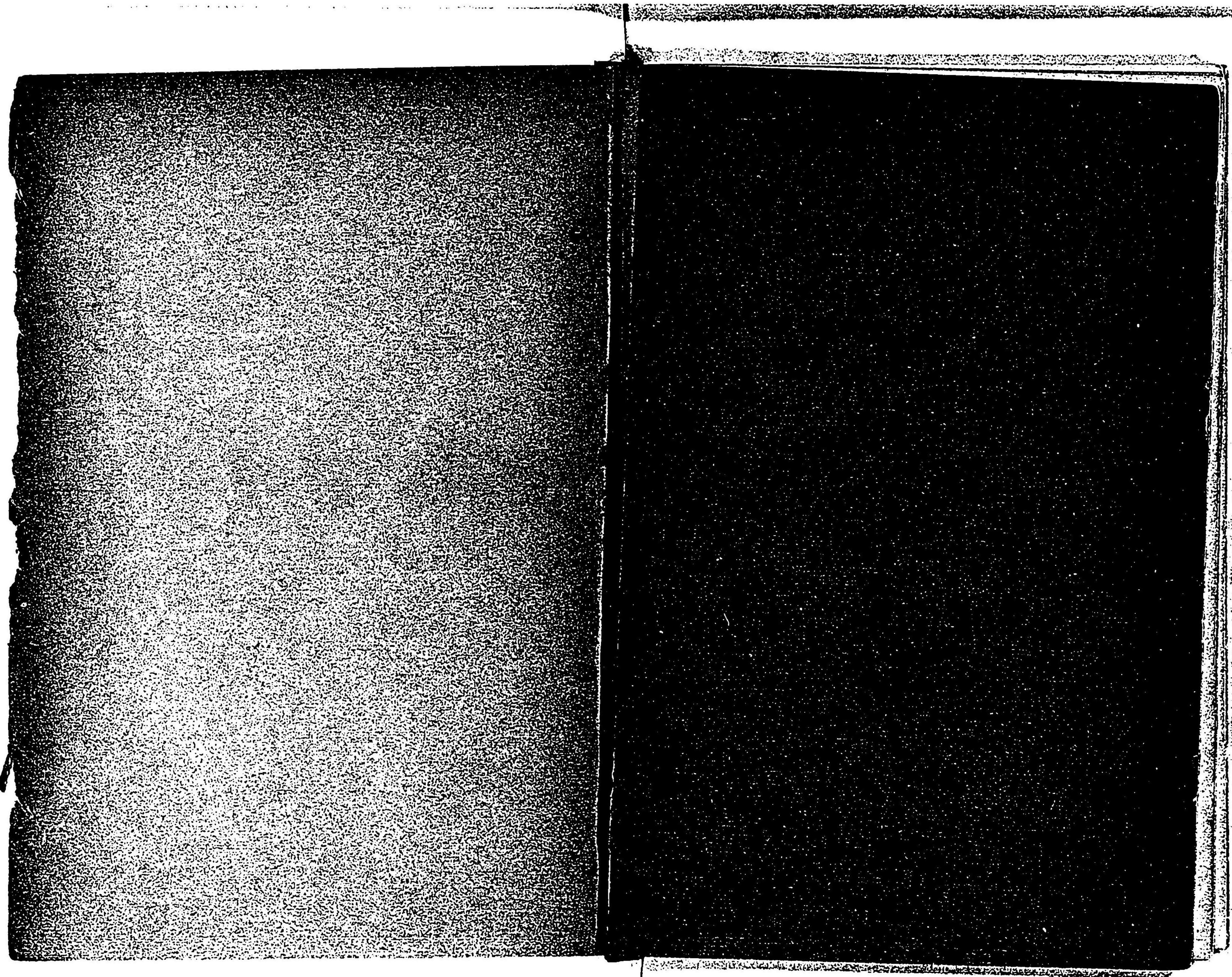
右二書ハ次ぎて必讀すべきこの

露國ホベドノスツエフ著 上田將譯

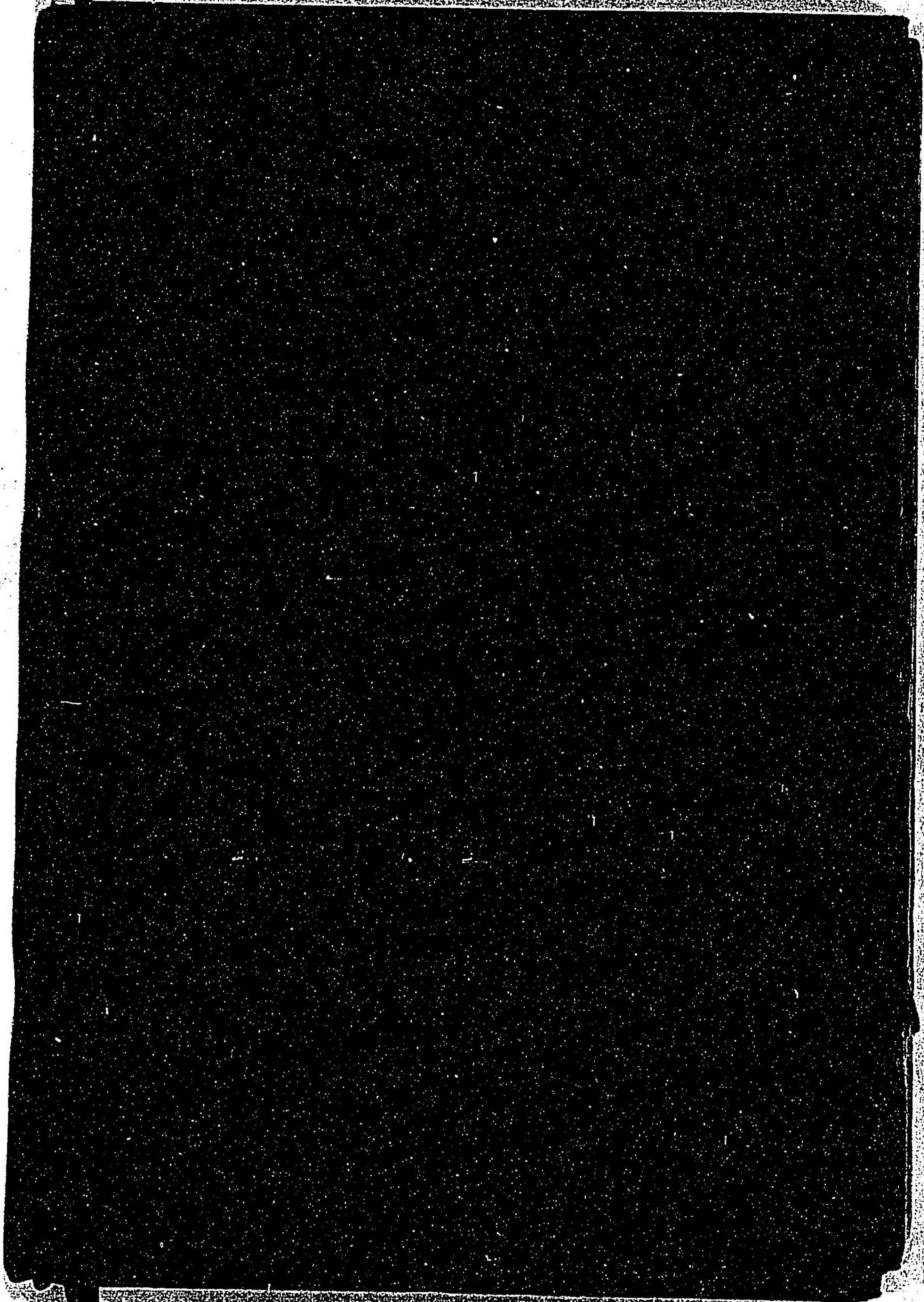
◎基督正教會史

全一冊

なり序を追ふて右二書を通讀せば基督教會の全般の歴史を知るを得べし



177
376



020548-000-7

17-315

基督正教会史

ポベドノスツェフ/著

M26

ABI-0361



